

日系家電五社の現場管理スキルの国際比較

— 英・米・東南アジアの事例研究

佐久間 賢

一 本研究の目的

日本企業のグローバル経営戦略の基礎的な条件の一つに、各国の労働市場の特性に合わせた現場管理スキルの運用がある。本研究では、日系家電五社が、英国、米国、東南アジアの各地域において、テレビ等を製造している事例研究を通じ、現場管理スキルに相違があるのか否かを調査し、労働市場の基礎的な条件について研究する。

二 調査・研究の方法

日系家電五社の英、米、東南アジア各地域の現地工場（従業員五〇〇人以上）を訪問の上、現地の生産管理について実態調査し、その調査結果を一定の評価基準（情報共有化モデル）により評価する。

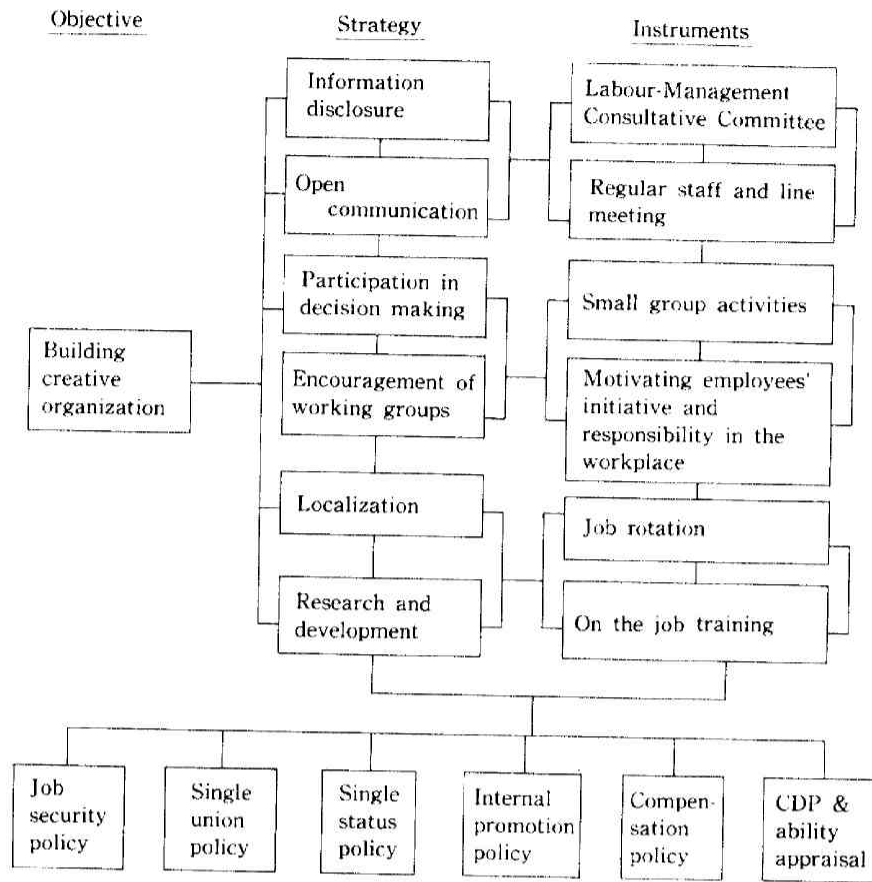
三 研究仮説

研究仮説は情報共有化モデル (Information Sharing System Model 以下ISSモデル) である。ISS情報を、業務情報、損益情報、権限(人事)付帯情報を含む情報とする。そして、ISSモデルは、「クリエイティブ組織」の構築を目的とし、それは環境の変化に対応できる問題解決型組織を意味している。(ISSモデルは次頁のISS Modelを参照)

四 ISSモデル

ISSモデルは、各企業が同一経営戦略を展開する場合に、各労働市場別の経営スキルに相違が見られるのか。もし相違があれば、それは経営組織体制上に起因する問

ISS Model: Conceptual Framework of Information Sharing System



題なのか、また、個人の経営スキルに起因する問題なのかどうかを明らかにすることにある。その結果、もし前者に起因する場合には、国際経営管理体制の改革について、後者の場合には、教育内容も含めた人材管理の改革について研究を拡大する。すなわち、それは各国労働市場の特質とその変化を前提とした国際経営戦略の基礎条件として明らかにされる。

五 本調査の結果

英、米、東南アジアの労働市場別特性の一部として、五社共に英国と東南アジアの方が米国よりスコアが高く離職率も低い。これは英国と東南アジアの国々では米国と比較して、より活発に労使間で情報の共有が行われており、日系企業にとっては英国や東南アジアの方が米国より経営戦略の展開が容易ということを意味している。

六 本研究の展望

本研究は現在予備調査の段階であり、今後ISSモデル（目的変数）とモチベーション（説明変数）との関係を調査し、日本企業がグローバル経営を展望するのに不可欠とされる、各労働市場に対応した現場管理スキルの特性を明らかにしていく予定である。

（さくま・まさる／経営学部教授）